



# 園だより

第10号

令和2年1月27日

駿河台大学第一幼稚園

園長 田所 恒子

## いっぱい遊んで、共に成長して

暖冬ということもあり、子どもたちは園庭に出て元気いっぱい遊んでいます。

『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』（ロバート・フルガム著・河出文庫）とあるように、夢中になって遊ぶことができ、友達とも触れ合える砂場は、大好きな遊び場となっています。そんな砂場の砂がぐっと減ってしまい、先日新たに砂を追加しました。子どもたちが、いっぱい遊び、たくさんのお楽しみ、学んだ証拠でしょう。

1年間のまとめのこの時期、子どもたち一人ひとりに、いっぱい遊んで、成長した姿が見られ嬉しい毎日です。

年少児は、ニンジンの種を蒔き、毎日、先生や友達とプランターを覗いたり、水やりをしたりして、生長を楽しみにしてきました。ニンジンが育つにつれ、年長児からカレーやポップコーンをご馳走してもらったことを思い出して、「僕たちもニンジンができれば、年長さんにもあげたい」と言い始めました。自分たちがしてもらったお返しをしたい、そんな気持ちが育っています。そこで担任たちはこの思いを受け止め、豊かな学びとなるように保育を考えました。子どもたちが自分で収穫し、茹でてもらったニンジンで年中児・年長児のクラスに届けることにしたのです。その際、担任が「なんて言って渡すの？」と尋ねると「いつもありがとって言う」「美味しく食べてねって言う」「今度は僕たちのニンジン食べてねって言う」と、自分で考えた言葉をそれぞれが発言していました。年少児でもこんなに自分で考え、思いを表現することができるように成長しました。

年中児・年長児には、ニンジンを食べられなかった子どももいましたが、年少児からももらったということもあり、みんなグッと我慢して食べることができました。食べてみると「美味しい！」という感想が聞かれたそうです。特に小学校に入学し、給食を食べる年長児には、嫌いな物、苦手な物を食べられたという自信はとても大きな財産です。ちなみに、年少児が育てたニンジンは、私がこれまで食べたことがないくらい甘く、本当に美味しいニンジンでした。

苦手なことにもチャレンジしてほしいという思いは、教員も保護者の方も同じでしょう。しかし近年、失敗を恐れるために、初めてのことや自信のないことに取り組もうとしない子どもが多くなっています。いちょう会からいただいたコマは、そんな子どもたちにやればできるという喜びを与えてくれます。担任は回し方を指導するだけでなく、コマ回しの台を提示したり、みんなで回す機会をもったりと様々な工夫をしてコマへの関心を高めています。年中児のAさんとBさんは、みんなの前で失敗するとくじけ、消極的になる傾向があり、コマ回しにもなかなか取り組まない状態でした。そこで、担任は二人だけのところを見計らって「コマしない？」と誘ったそうです。渋々コマ回しを始めた二人でしたが、いち早くAさんが回るようになりました。「Bちゃんできないの？僕できたよ」というAさんの言葉に意気消沈してしまったBさんでした。しかし、仲の良いAさんが回ったことが悔しく負けたくないと思ったのか、諦めずに担任に教えてもらい練習を続けていました。すると、回ったのです。嬉しくて笑顔いっぱいのBさんのもとにCさんが来て「できたの！僕も何回も練習してできたんだよ」と声をかけてくれました。Aさん、Cさんの存在が、Bさん一つ大きくしてくれました。

先生や友達と、いっぱい遊んで、共に生活して、悔しかったり、つらかったり、嬉しかったり、楽しかったりと様々な体験をしながら、子どもたちは共に成長しています。展覧会では、そんな子どもたちの表現活動をぜひご覧ください。



新しい砂はふわふわしていて、砂遊びを楽しめます。これからもいっぱい遊んで欲しいものです。



一クラス分のニンジン。小指位の物から、お店に出せる位の大きさの物までバラエティに富んでいます。どんな形や大きさでも自分が抜いたニンジンが一番の年少児でした。



なかなか回せず、悔しかったり、つらかったりするコマ回し。だからこそ回せたときの喜びは大きいのです。



貸し切り状態の井の頭動物園の遊園地。実際動かしてもらおう中で自分の乗りたい乗り物を選択し2つの乗り物に乗りました。この共通体験を基に、友達と一緒に展覧会の共同製作を楽しみます。